



かんだん・少年と乳の親

作・絵：唐栗コロツケ



ええ、ですから
来週には帰れる
かと――

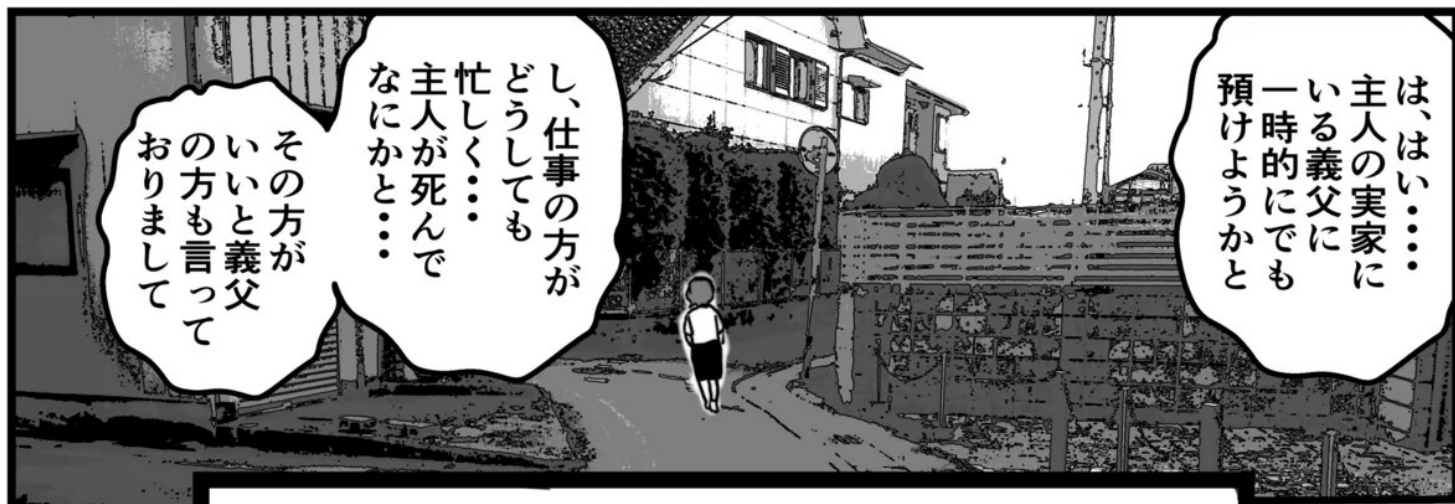
はい、すいません
主人の実家に
帰省しまして

ハル坊

おつかいを
頼まれて
くれんか？

はると
春斗くん？

.....



は、はい……
主人の実家に
いる義父に
一時的にでも
預けようかと

し、仕事の方が
どうしても
忙しく……
主人が死んで
なにかと……

その方が
いいと義父
の方も言っ
ておしまし



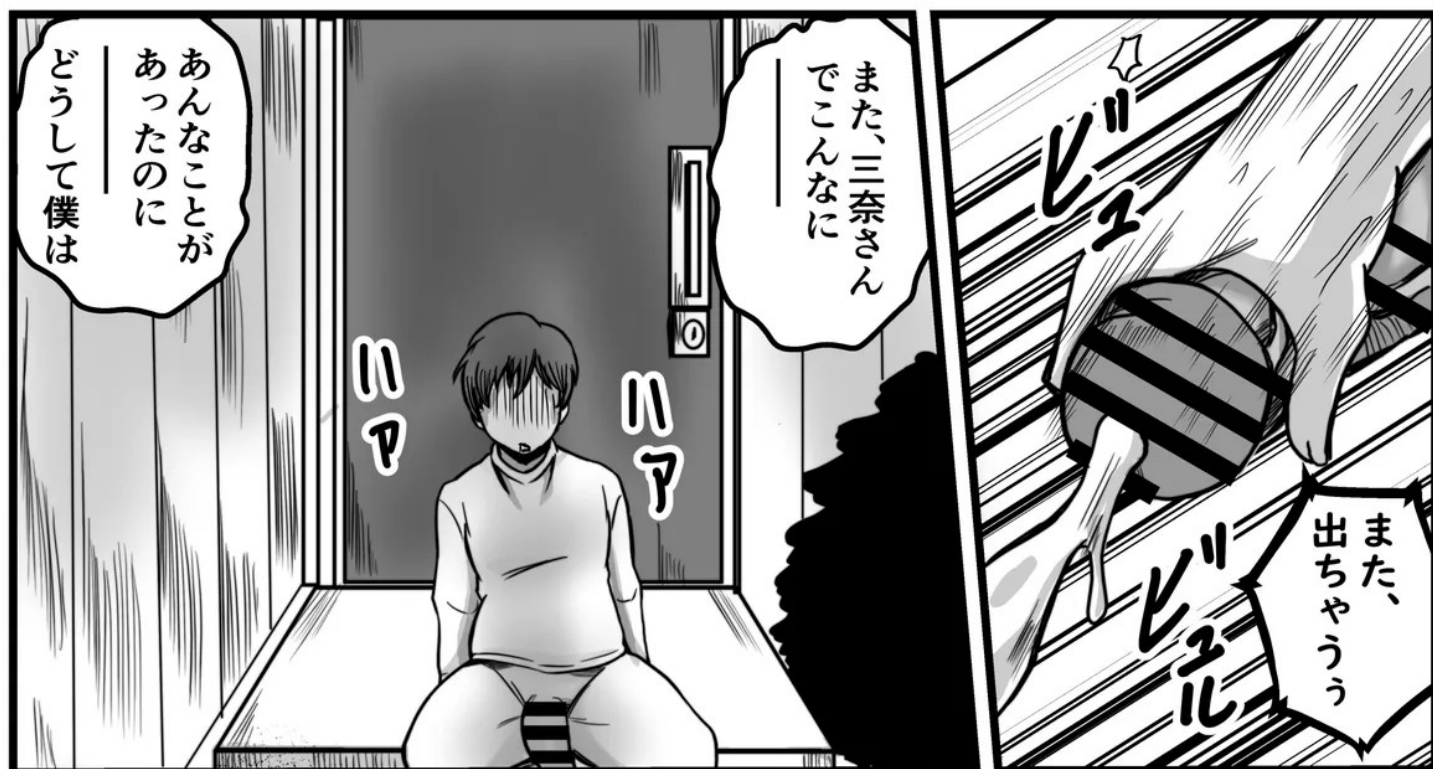
はあはあ……

三奈さん、
ごめんなさい

また、三奈さん
のおマ○コで
シコシコして
ごめんなさい

だ、だって、
三奈さんを
想像して
やると……

白いの
がビュウ
ビュウ
たくさん
出て
気持ち
いいんだ





そ、それは
僕が勝手に
人の家に
入って...

そこで...
僕のお〇ん
〇んでシコシコ
して

白いのを出しちゃ
って

その庭を
汚しちゃった

からです

!?

うわあ……

ブヨーン

下の方のビラビラも
毛が濃くて、エッチ

あらあら、
まあまあ

すっごく大きな
おっぱい——
三奈さんより大きい——

ど、どうしよう
またお○○ん
が――

気にすること
ないのよ

ママのおっぱい
に反応しちゃっ
たのにね♥

わたしの
僕ちゃん

わ、わたしの
ぽくちゃん？

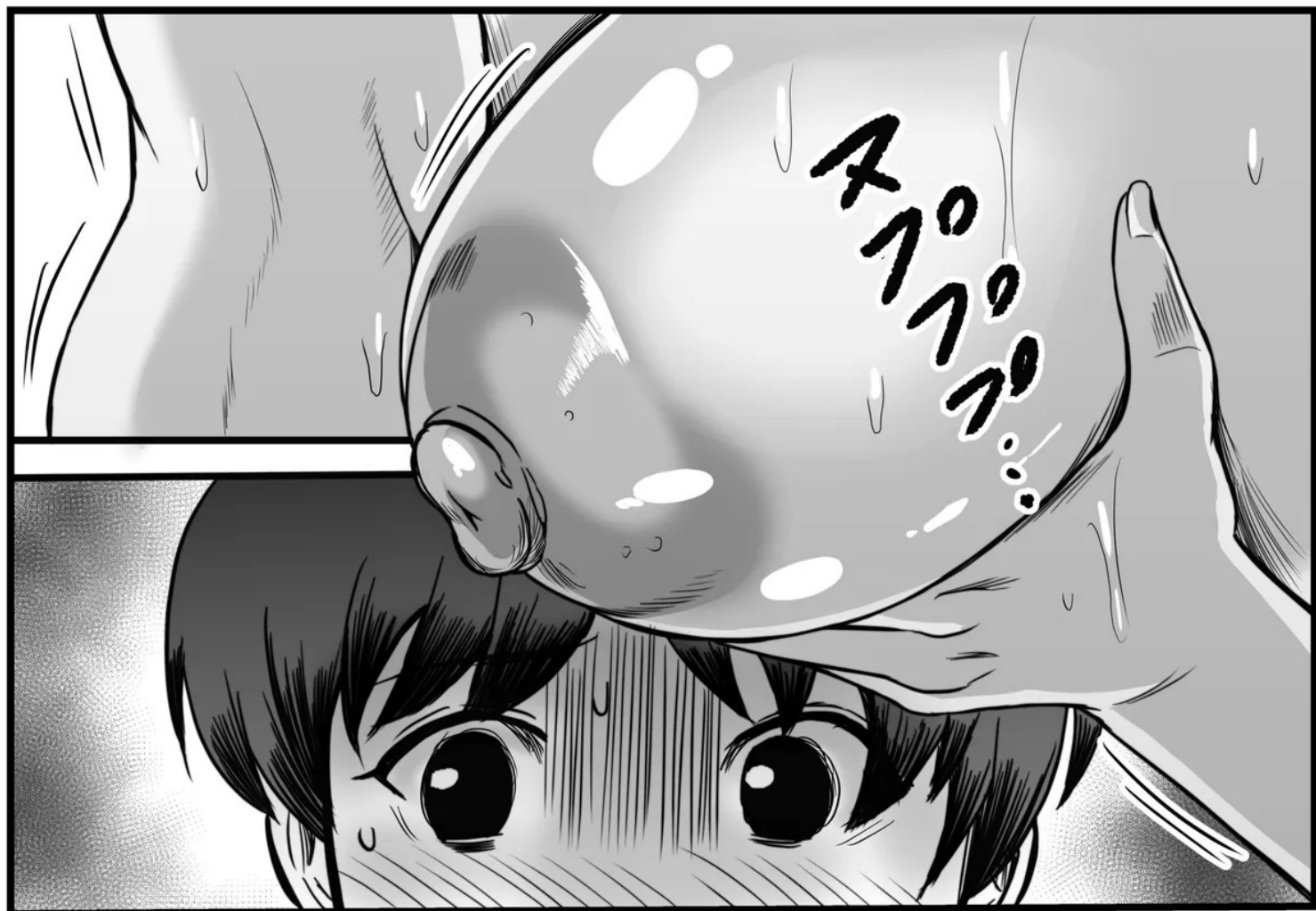
そういえば
さつきから
ぽくのこと
ずっと……

でも、すぐに
鎮めてあげないと

苦しそう
ね――

えっ!?

オッ……







結局、ママは
そのことで
家を出て行き、

その後すぐ、その
知らない男の人と
事故にあって

僕のパパは、ママが
出て行って、しばらく
して、三奈さんを家に
連れてきて、

若月三奈さん
だ

お前の新しい
ママになって
くれるひとだぞ

よろしくね
春斗くん

でも、パパの中では、ママが
出て行ったことと死んじゃ
ったことがシヨックだった
んだと思う――

パパも三奈さんを
家族に迎えてすぐ

春斗くん

大丈夫
だからね

ママがずっと
そばにいるから

僕にそんなこと
言ってくれた
のに――



ちよっと、
春斗くん!?

何考えて
るの!?

変な冗談は
やめなさいっ

は、春斗くん!?
今すぐやめな
さいっ!!

どうしても、あの時の
ママのいやらしい顔
が思い浮かんで――

クチュ

クチュ

いやあッ

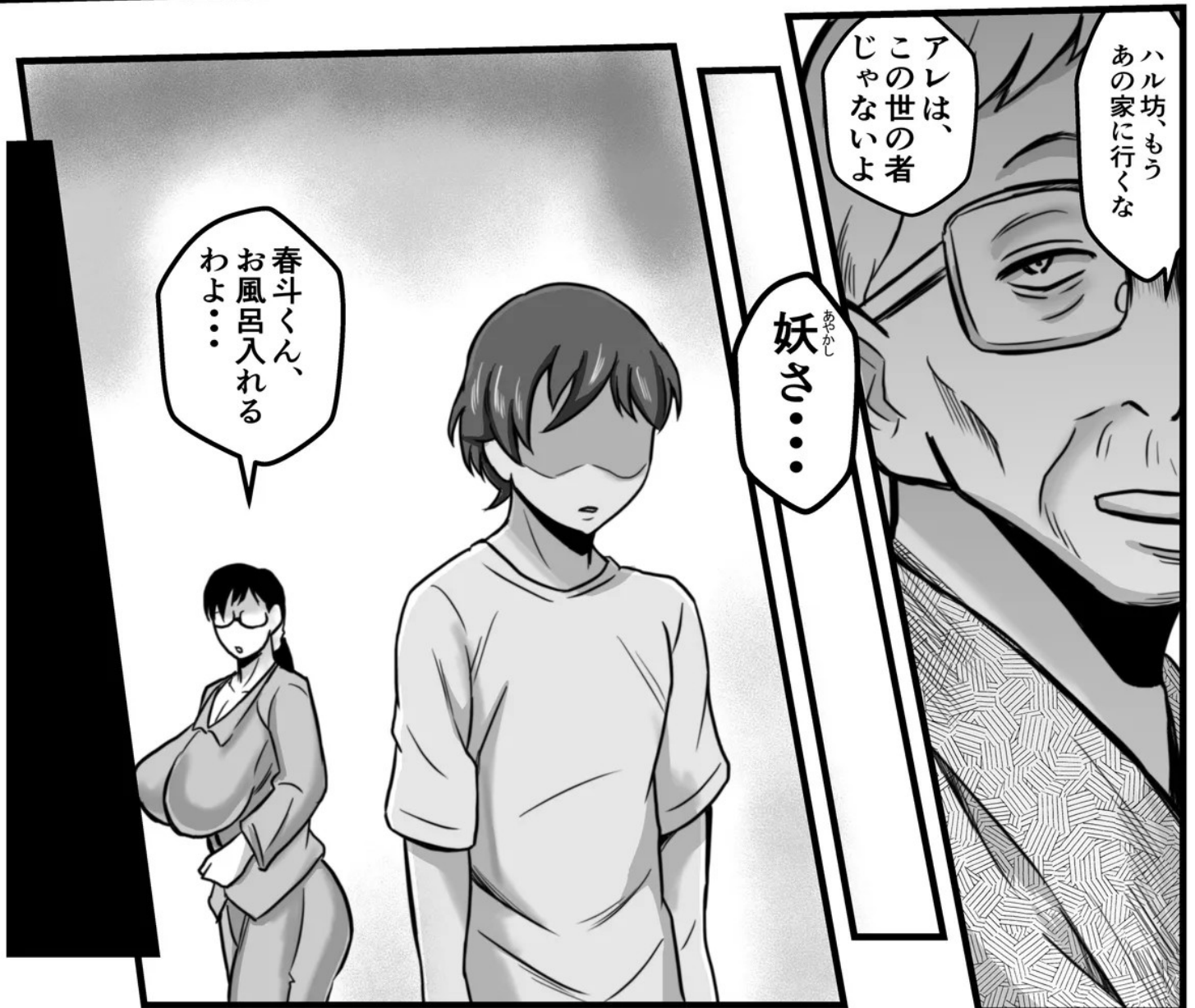
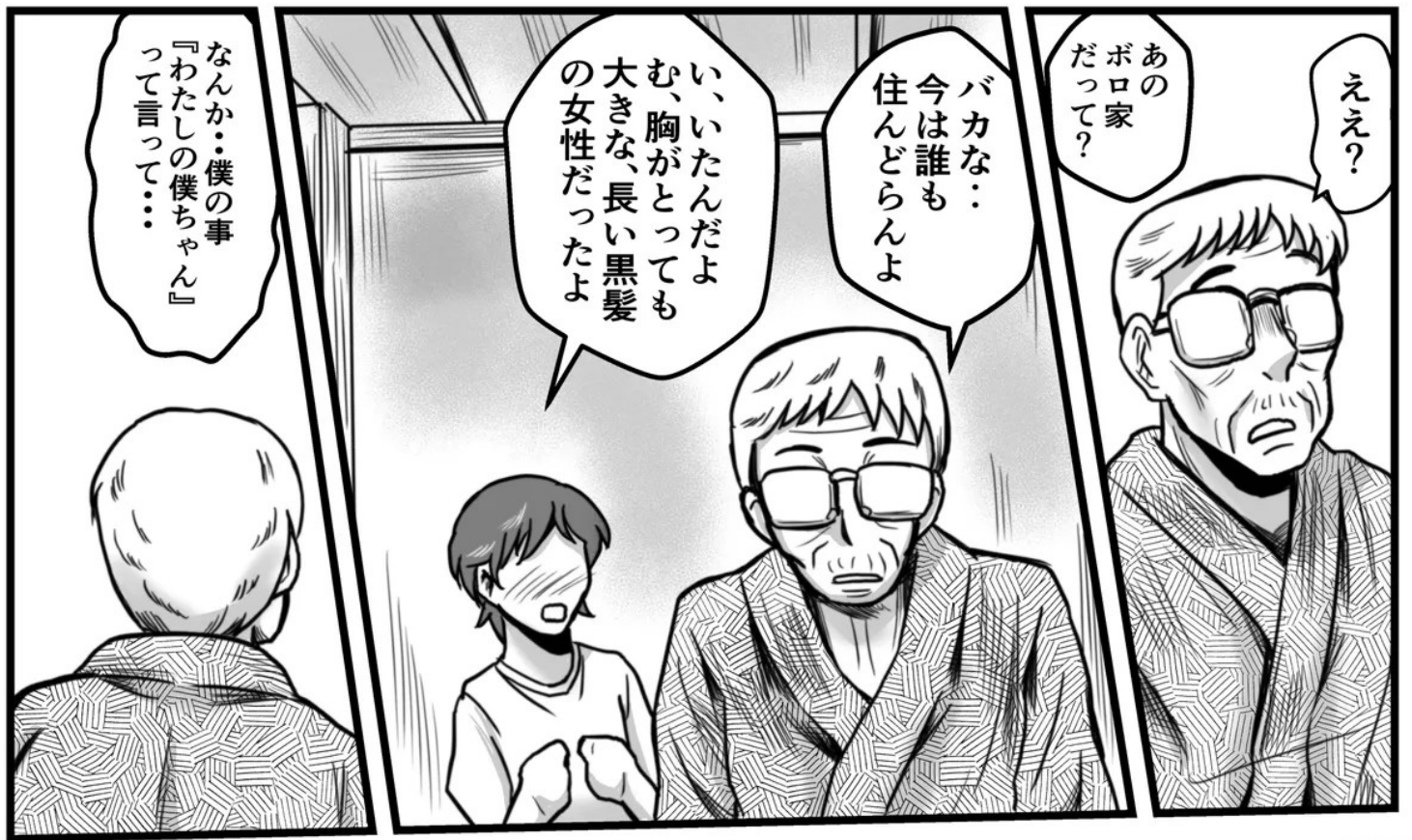
こ、これが三奈さん
のおマ○コ……なの!?
すごく気持ちいい……

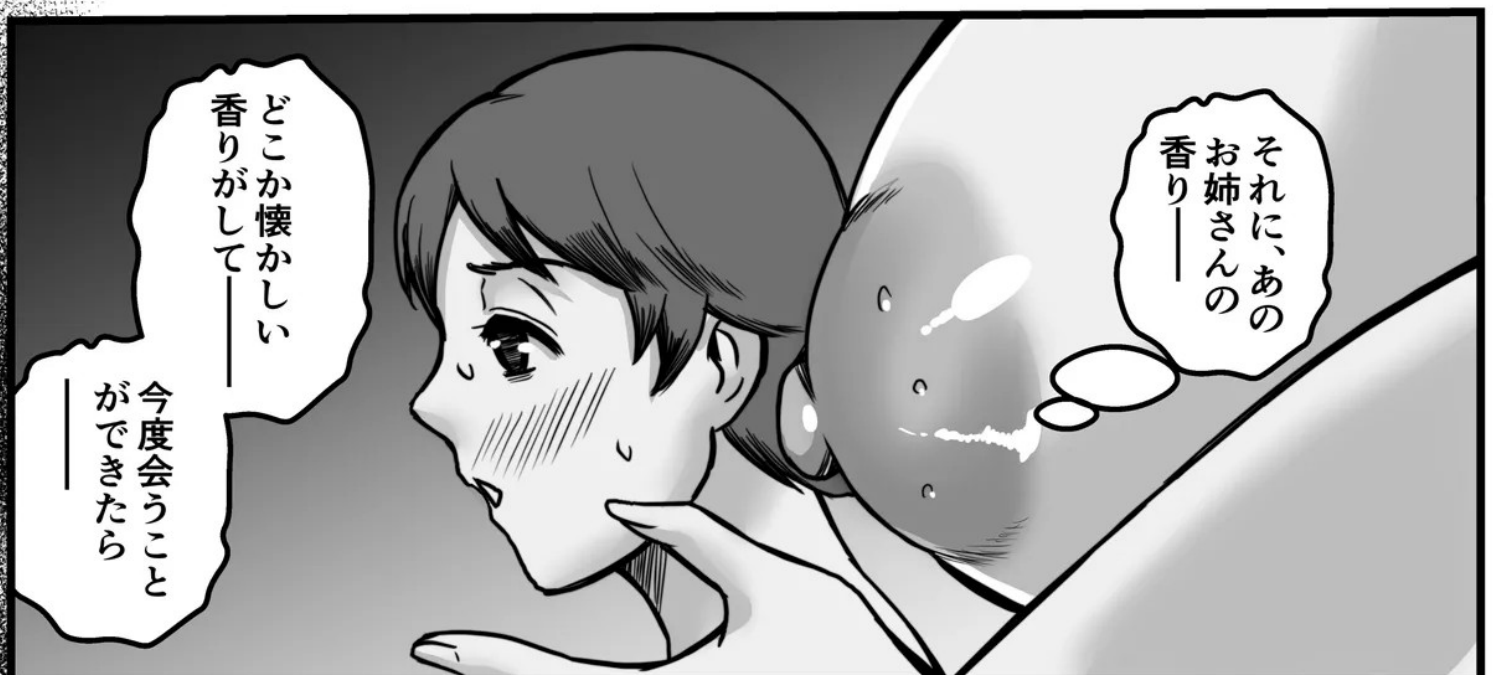
アッ……♡

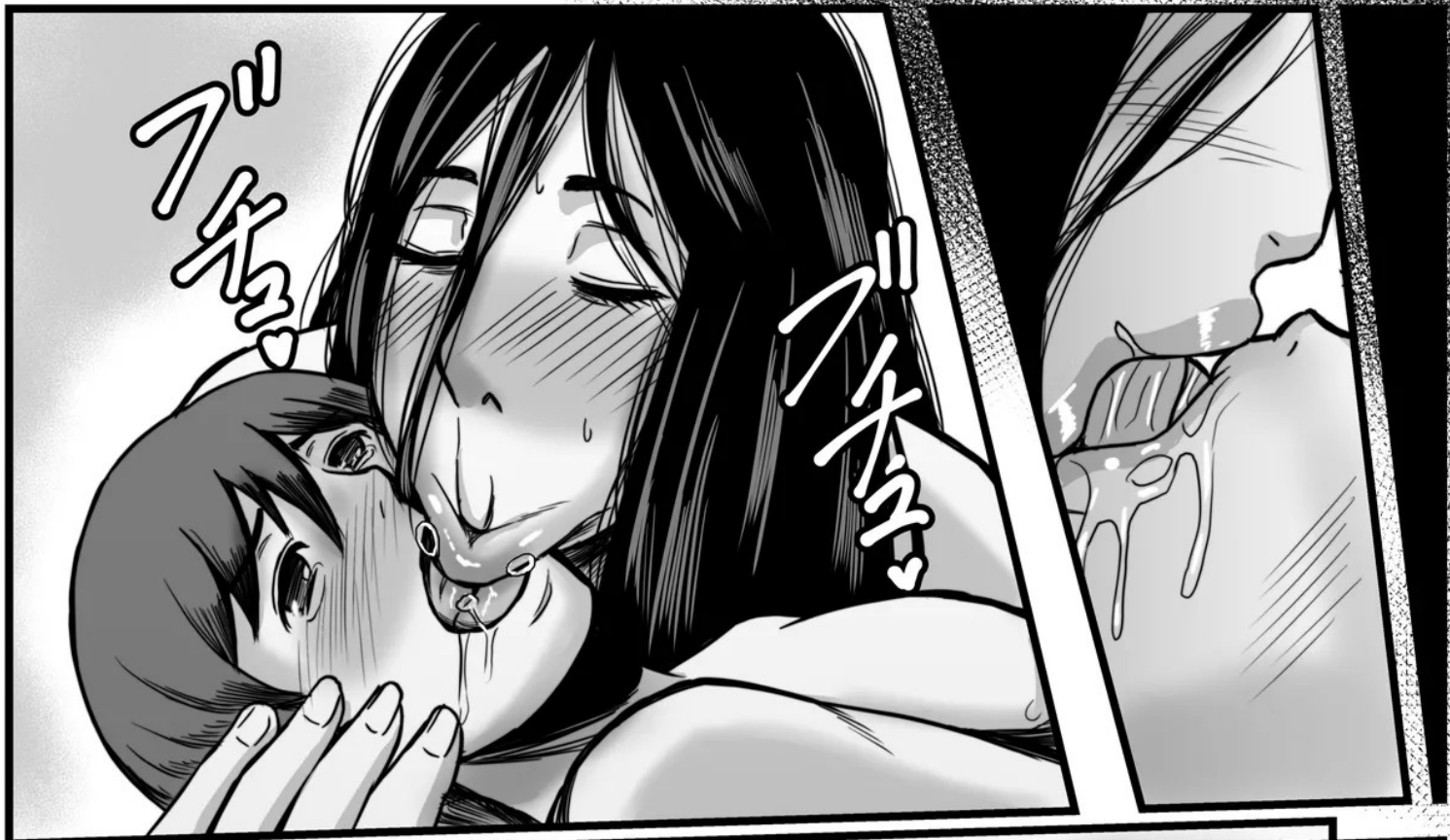
ご、ごめんなさい
三奈さん……でも

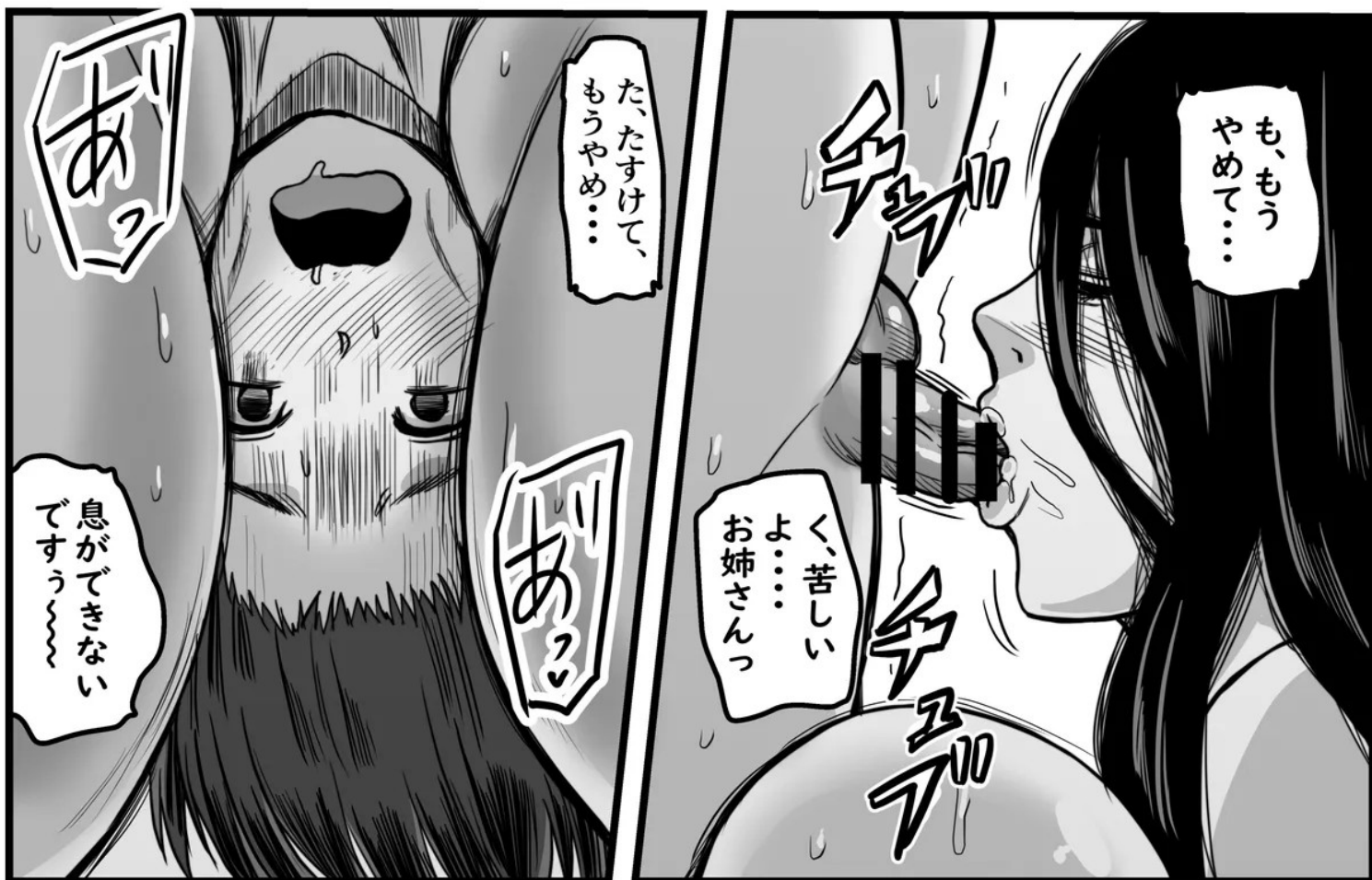
ウ、ウソでしょっ
まつ、待って……

クチュ



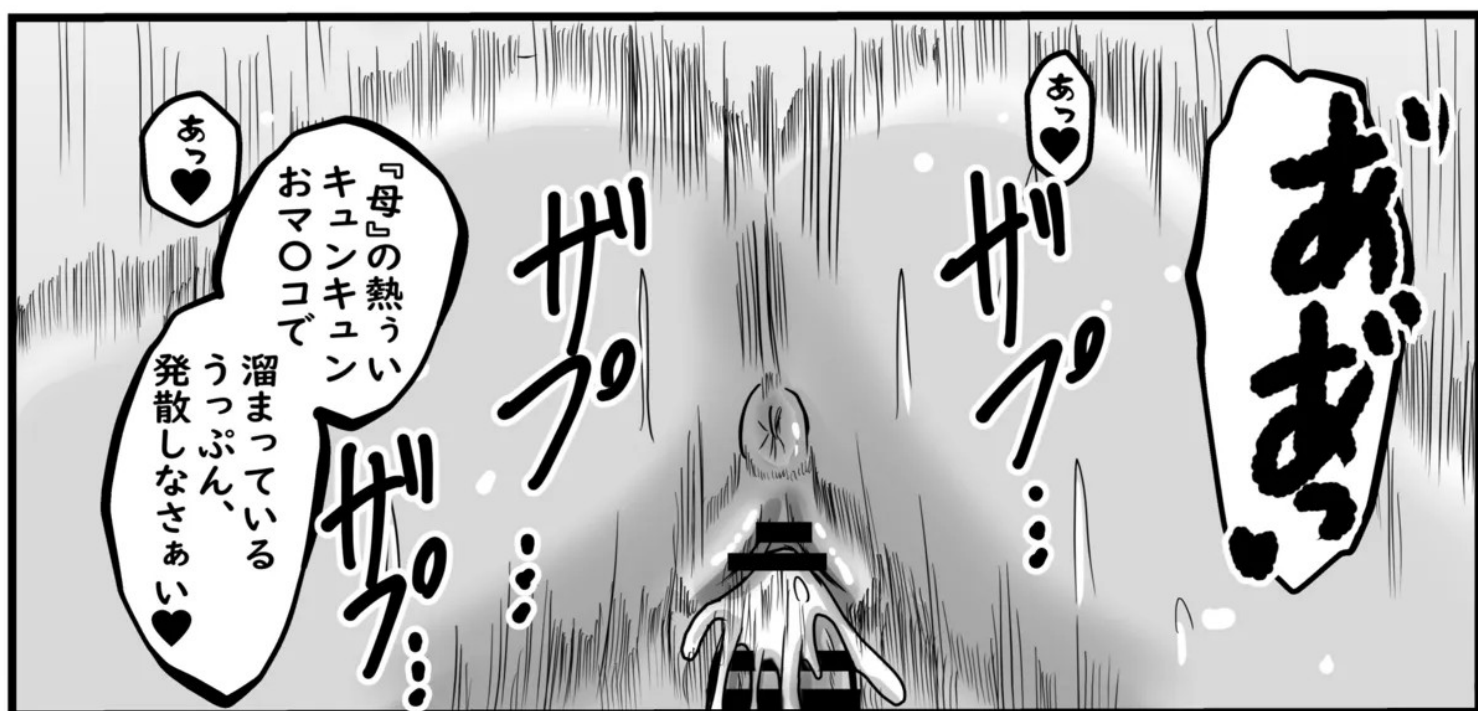
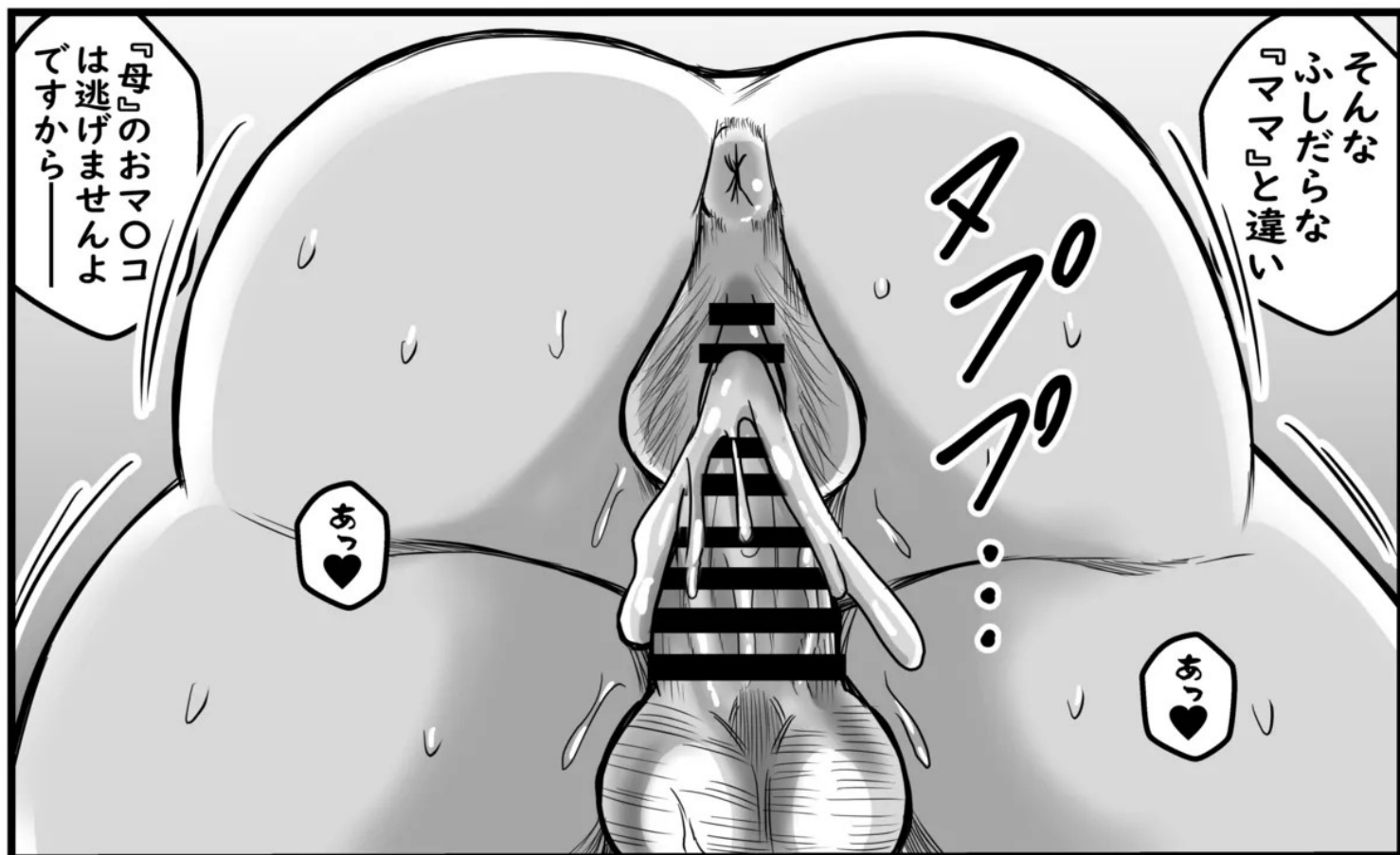


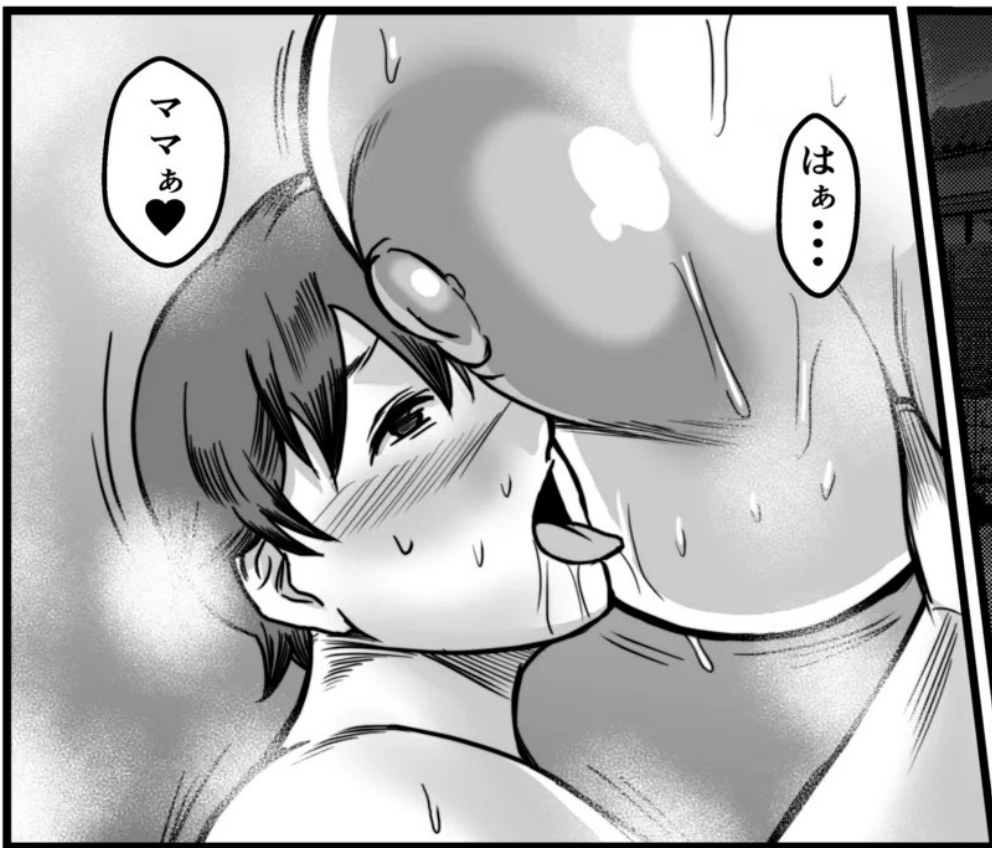
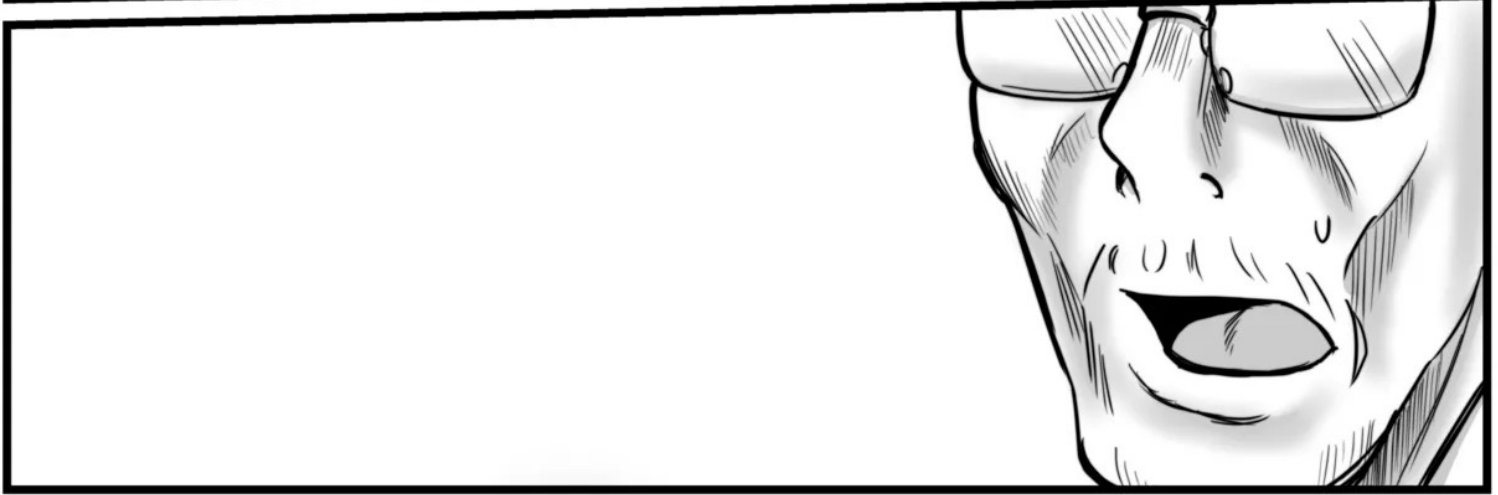
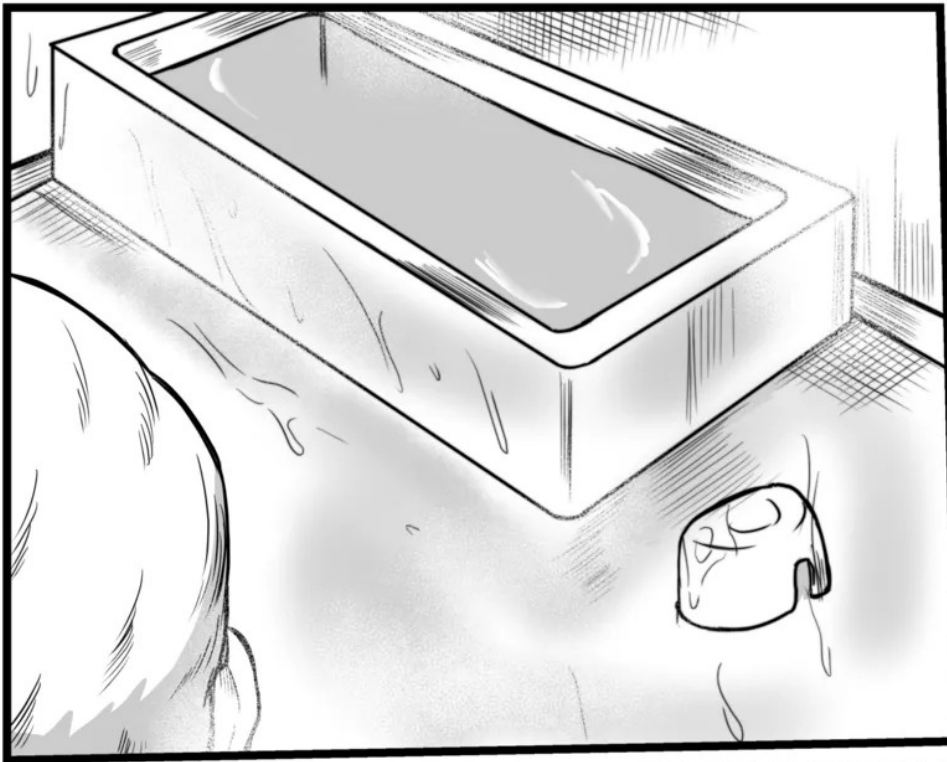


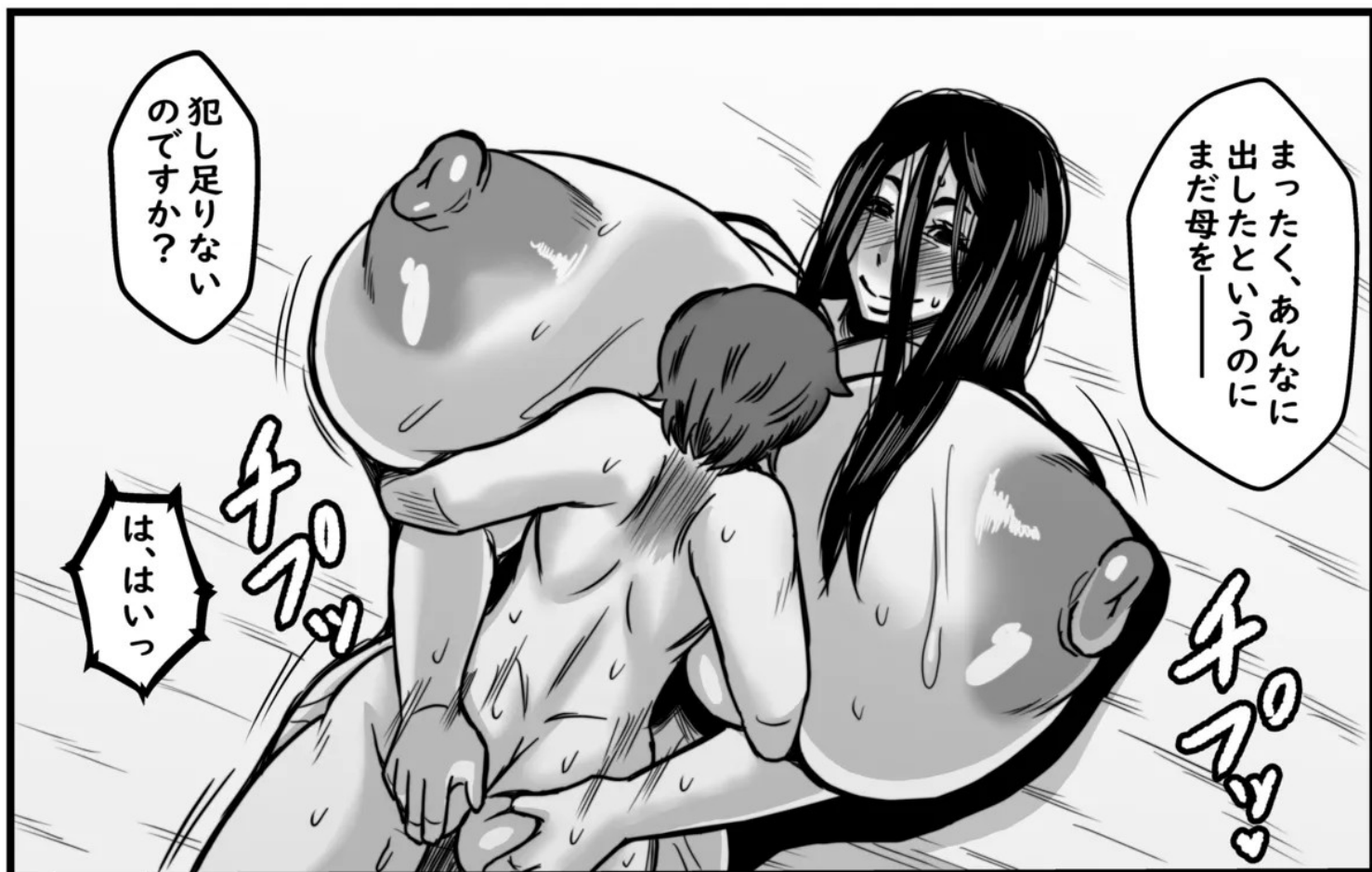


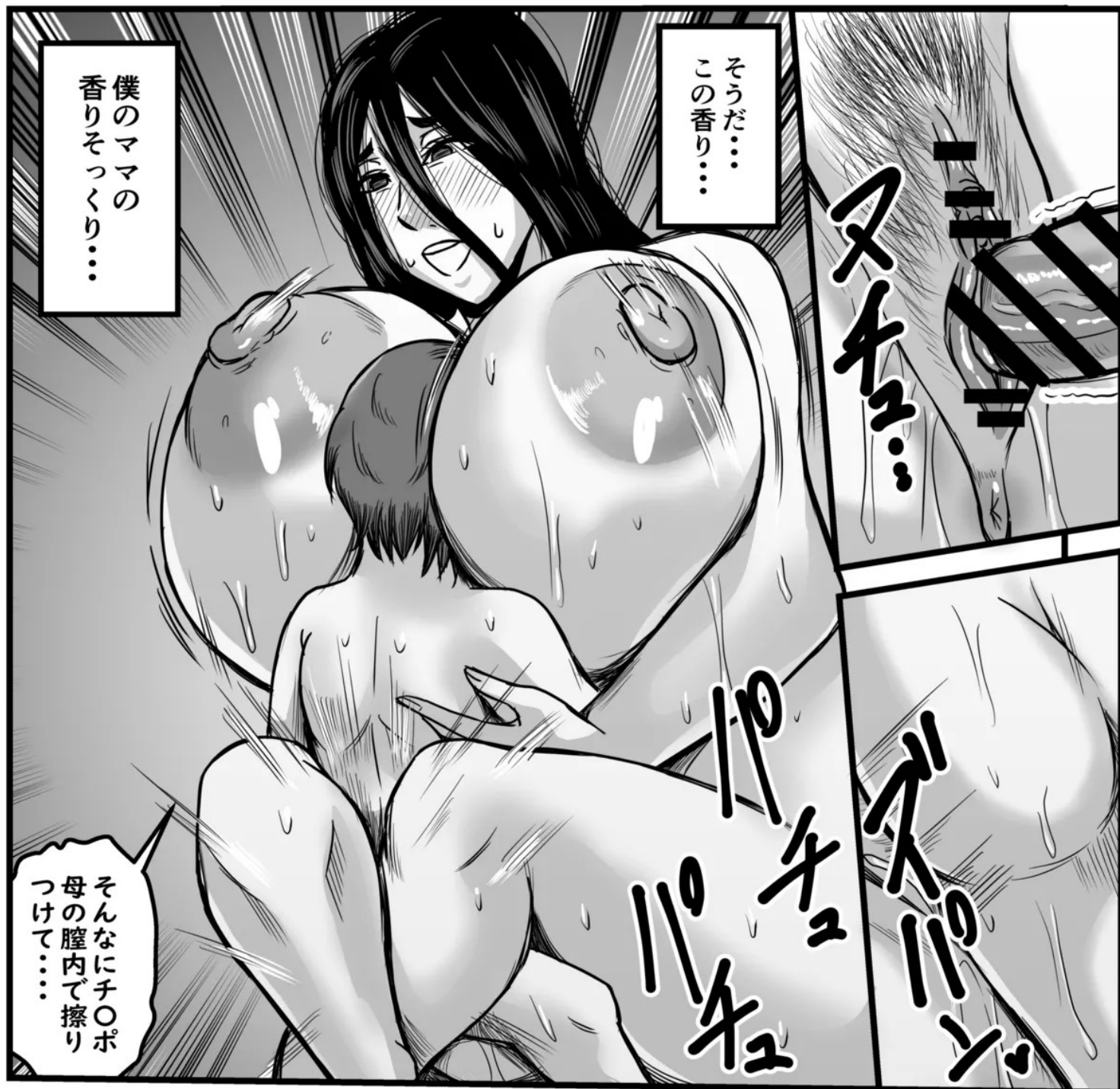












そうだ…
この香り…

僕のママの
香りそっくり…

そんなにチ○ポ
母の膣内で擦り
つけて…



そんなに母と
シコシコするのが
いいんですか？

は、はひ…

ママともっと
したいです…

春斗君が
行方不明
だなんて…

ほんとに、
お義父さんは
何も知らない
んですか？

お義父さん!?

沖縄にいたと
いう女の妖怪
『乳の親』

一説には、乳の
親という妖は、
子供を早くに
亡くした

母親の霊だと
いうが…



母がろくでもない
妻子持ちと駆け落ち
した挙句、死に

それが原因で
親戚中をたらい回し
されたワシの前に
現れた彼女も

伝承通り孤独
だったワシのため
『母親の代わり』
いや、母親として
ワシを育ててくれた

食事、洗濯、お風呂
一人で寂しい時には
いつもそばにいた

彼女はワシのため
必死に『母』として
接してくれた

そういう存在
なのかもしれん



息子のためなら
なんでも叶えよう

息子のためなら
なんでも叶えよう
とする存在という
こと――

少しでも彼女へ
のよこしまな想い
が生まれれば――

母はとっても
気持ちよかった
ですよ、

たくさん練習
したかいがあり
ましたね

さあ、もっと
母をイカせて
いいんですよ

さあ、もつと
母をイカせて
いいんですよ

おすおす
息子のお千〇ポ
てーク、ークウ

僕ちゃん

もっど、
もっど、
してえ♡

こまがい
いいのか
おふくろお

ワシと同じように
母への歪な愛が
春斗にあるのなら

あー

うー

うー

うー

あー

またボクの
ロンロンで
イッてえ

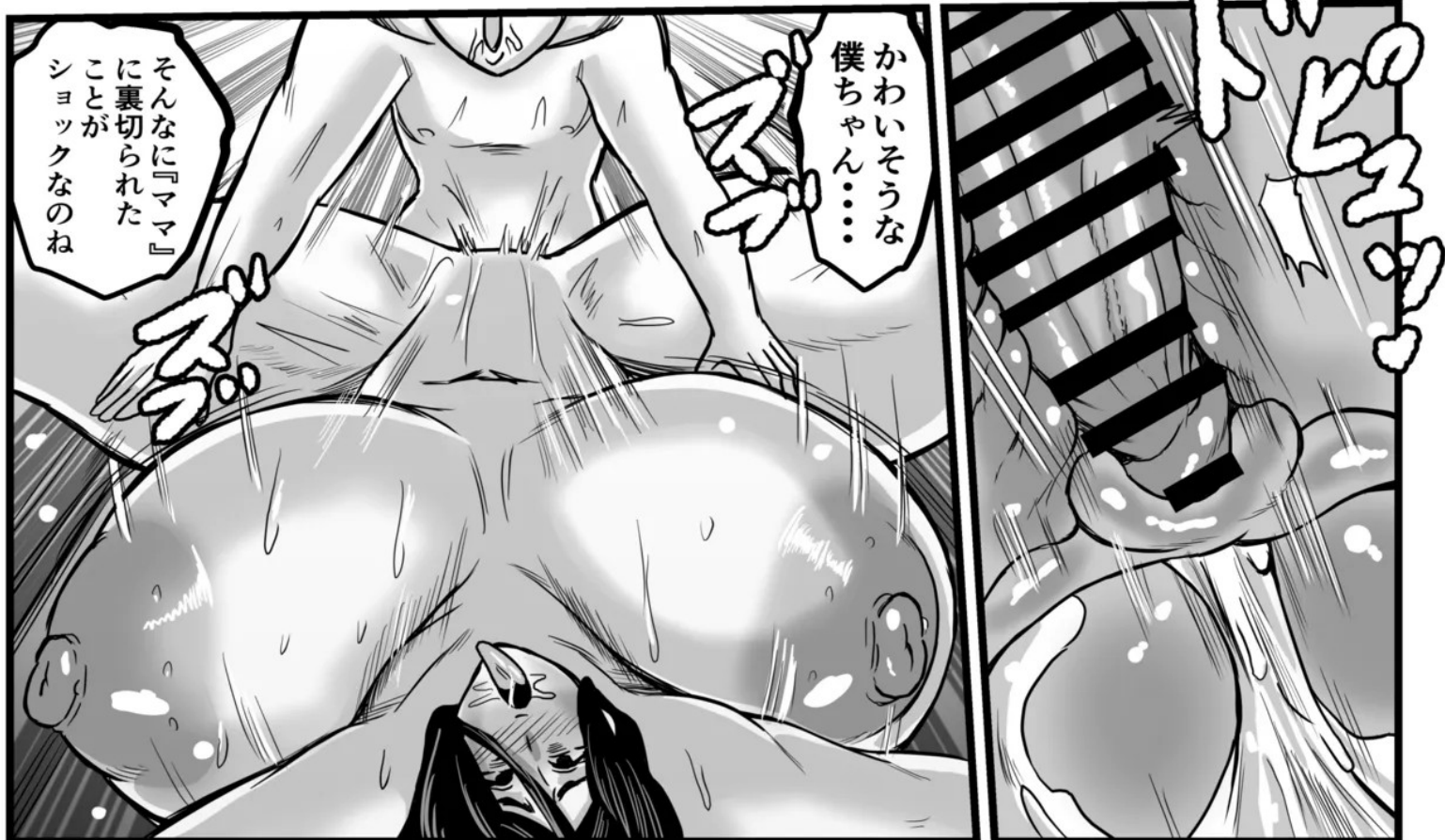
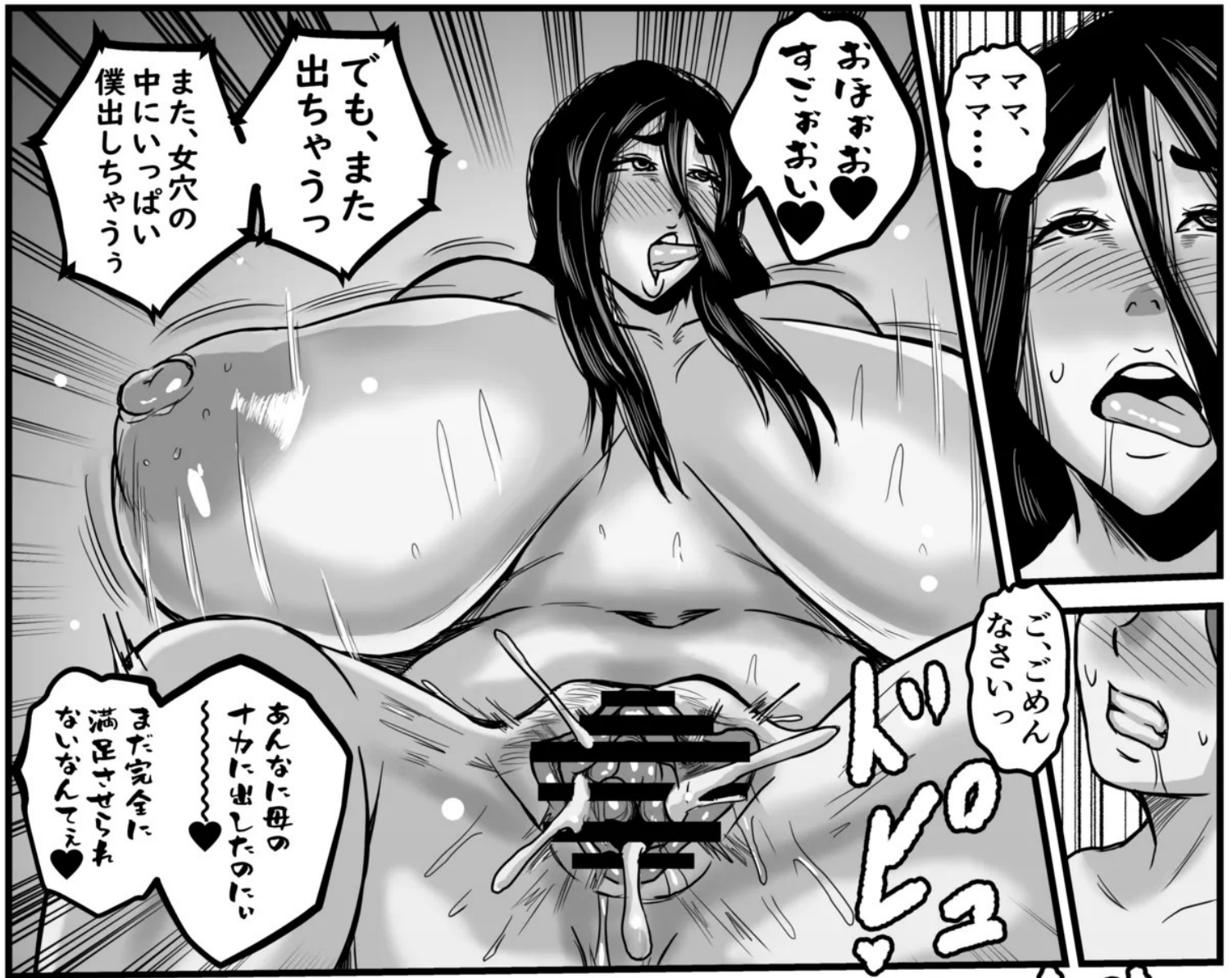
春斗は帰ってこれん
かもしれん

うー

うー

うー





ママ、パパ、
三奈さん……
ごめんなさい

タ、タメ

うちつけちゃ
感じちゃ……

僕のせいで、
みんなが不幸に
なっていくんだ

ビクッ

グビュッ！

また膣出し
されてイクッ

ごめんなさい
三奈さん……
僕は……

僕を捨てた
ママ——

僕よりも
男の人を
選んだママ——

僕は、ただママに
愛してほしかった
んだ——

も、もう
いやあ

おほおっ♡

それを僕は、僕を
愛してくれた人に
ぶつけて——

グ
グ

グ
グ

おっ♡

三奈さん
三奈さん
気持ちいいよ

ズ
ズ
ズ

春斗君の
お元氣
おチ○ポで

ママ、
壊れちゃう
わぁ~~~~♡

おほおっ♡

おっ♡

僕を捨てて、
死んでしまった
ママ——

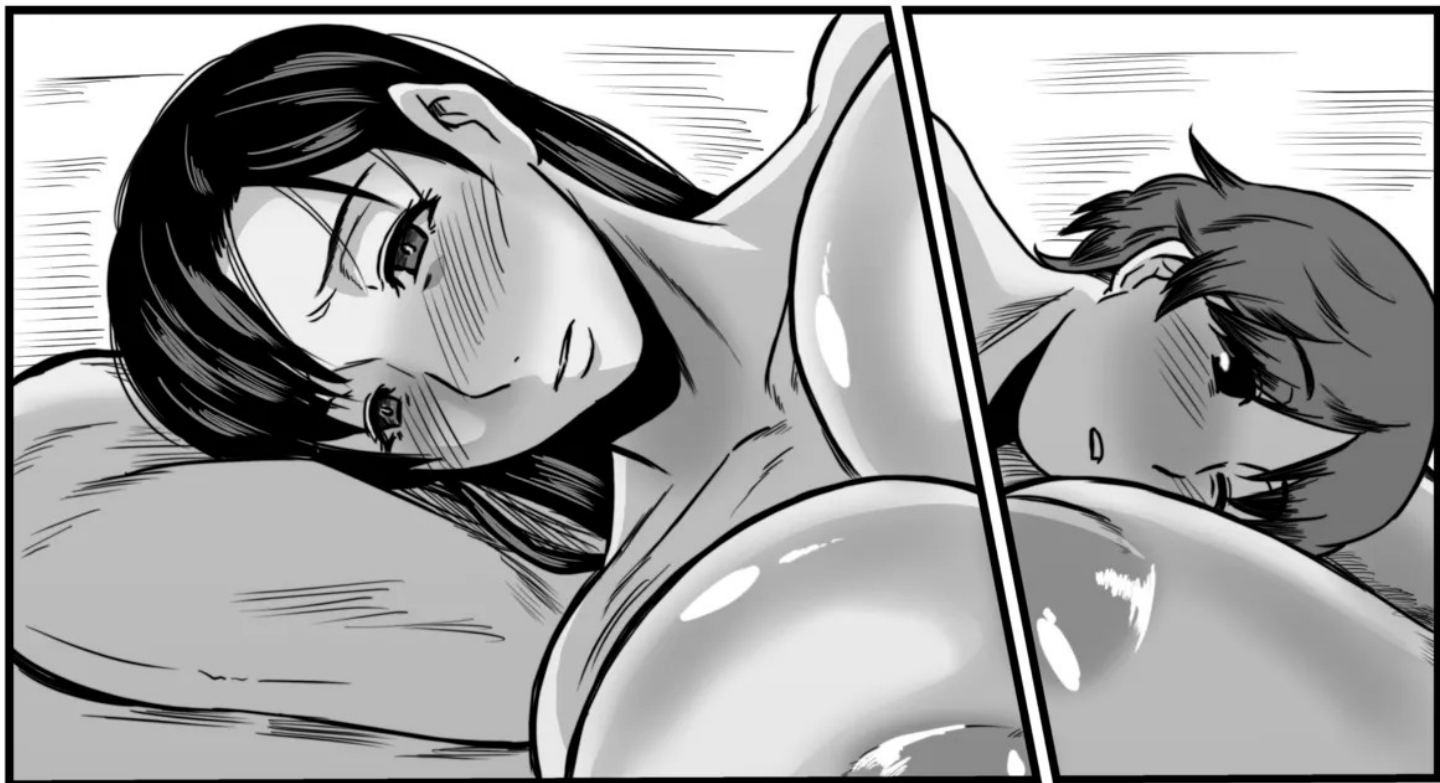
僕は、たった一人
残った大切な人を
壊してしまっただ

ち、ちがうん
ですっ!!
私、知ってたん
ですっ!!









結局、僕は帰って
きちゃったんだ
この世界に――

僕のせいで、ママも
パパも死んじゃった
この世界に――

そうか、
やっぱり
帰るのか

はい、仕事も
ありますし、
むこうの家の
ことも……

あの人はこの世界に
帰されてしまった
以上、これから僕は
一生このことを苦しむ
んだろうな――

少し、二人で
これからのこと
を考えていこう
かと思っています……

そうか、
がんばるん
じゃぞ

でも――

